

第2学年A組道徳科学習指導案

日時 令和2年9月23日（水）第2校時

生徒数 30名

場所 2年A組教室

指導者 教育実習生

指導教諭

1 主題名 社会への貢献 【内容項目 C-(13) 勤労】

2 資料名 「小さな工場の大きな仕事」

3 指導について

○ねらいとする価値について

中学生時代は、進路や職業についての関心が高まる時期であるが、自己中心的に捉える傾向がある。このような時期に、勤労の意義や尊さについて十分理解させることが大切である。また、職業についての正しい考え方を育み、自らの将来の生き方を考え、社会の形成に参画する意欲と態度を養うことが重要である。

また、今日、職業や勤労に対する価値観が多様化する中にあっても、勤労を支える道徳的価値として重視すべきなのは、勤勉である。勤勉とは、事故の精神を集中させようと努力することであり、一つの仕事に没頭することである。勤労を通して社会に貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求し実現していくことが、一人一人の真のこうふくにつながっていくことにもなる。
(中学校学習指導要領解説 第3章 道徳科の内容
内容項目の概要)

○生徒の実態について

本学級の生徒は、道徳の授業において積極的な生徒が多く、特にグループ活動などの交流活動に関しては、授業のテーマに沿った心情を持ち、互いに意見や考えを出し合うことができる。一方で、生徒たちは学級活動の授業において「人はなぜ働くのか」について学んだ。しかし、生徒たちは、働くことを経験したことがないため、何のために働きたいかという質問に対して、「社会の役に立つため」や「社会とつながるため」と答えた生徒は少なく、「お金を稼ぐため」「自分の夢をかなえるため」と答えた生徒が多く見受けられた。そこで、今回の道徳の授業を通して、働く価値について幅広い視野で考え、自分の将来の生き方について真剣に向き合う姿勢を養いたい。

○資料について

本教材は、東京都大田区の小さな町工場で生活している中学生の「僕」が、職場体験や家族とのふれあいを通して、勤労の尊さや働くことの意味について理解を深めていく内容である。大きなゲームの会社と小さな町工場を比べ、自宅の仕事に引け目を感じていた「僕」が小さな工場で働く父の仕事の大きな価値に気づいていく。「僕」の心情の変化を通して、職業への理解を深め、勤労の意義を考えさせることで社会に貢献しようという心情を育てたい。

○指導にあたって

本資料を通して生徒に自覚させたい道徳的価値は、「勤労」である。そのことを踏まえ、導入段階においては、主題への問題意識を持たせるために、職業に関するアンケート結果と大企業の写真と工場の写真を見せ、自分たちの職業観を確認する。展開前段においては、資料を読み「僕」の心情を共感的に理解させ、さらに、母親が作ってくれた弁当を工場の象徴とし、ゲームソフトの会社と対置することで「僕」の心の葛藤について考えさせる。そして、展開後段においては、勤労についての見方を深めさせるために「父の黒い手が誇らしく見えたのはなぜか。」を中心発問とし、意見の多様性に気づかせるために交流活動を行う。そして、終末段階においては、働くことの意義を考えさせるために学校を生徒たちにとっての社会だと考え、すべての仕事に意味があるということを理解させたい。そして、本時の感想を自分の言葉で書き残すことで今後の実践意欲につなげたい。

4. 本時について

(1) ねらい

- ・ 勤労の意義を理解し、将来の生き方について真剣に向き合い、社会に貢献しようとする姿勢を養う。

(2) 展開

	学習活動 主な発問 (○◎), 学び合い活動 (★)	引き出したい生徒の 意見	教師の働きかけ (○) 学び合い活動 (★) 評価 (◆)
導入 5分	1. 大企業と町工場の写真を見比べ、さらに、職業アンケートの集計結果を見る。 大企業の印象は？ 町工場の印象は？	・ 給料が高そう ・ きれい ・ 給料少ない ・ 汚い	○大企業の写真を見た時の良い印象から、町工場への印象の差が明確にわかるように板書する。
展開 35分	2. 電子黒板で本文を流し、「僕」の気持ちを考える。 ○「僕」が、「あんな仕事はしたくない」と言っているのはどうしてだろう。 3. 「僕」が弁当を持って行かないと判断したところまでを読む。 ○職場体験当日、「僕」はどうして弁当を置いて行ったのだろう。 4. 最後まで読み、「僕」の心情を考える。 小さな部品がないと人々の生活はどうなるだろう。 ◎「僕」が「父の黒い手が誇らしく見えた」のはどうしてだろう。	・ あまりお金をもらえない ・ 汚れたくない ・ 汗をかきたくない ・ 弁当を持っていくのは恥ずかしい ・ 貧乏に見えそう ・ 油のにおいがついてそう ・ ナビが使えない ・ 次の日の天気かわからない ・ 父の仕事が世界の人々の役に立っているから ・ 仕事への熱意や愛を感じたから ・ 油まみれになりながらも部品を作っていたから ・ 自分の能力を長い間仕事に生かし、すごいものを作っている。	○机間指導を行う。 ○一人で考えさせ、数名に発表させる。 ○弁当を持っていかなかった「僕」の心情を理解しやすくするように、本文について細かく生徒に質問していく。 ○グループで話し合わせ、意見の多様性に気づかせる。 ○仕事を見た目で選ぶようとしていた主人公の心情の変化について考えさせ、「働く」ことの意味について理解させる。

まとめ 5分	5. 学校を社会だと例え、自分にできることは何なのかを理解する。		○学校で使われている雑巾の写真を 見せ、今の生活が将来の生き方 へとつながることを伝える
	6. ワークシートに振り返りを書く。	・すべての仕事が社会に貢献している ・見た目で職業を考えない ・自分の能力を生かせる仕事に就きたい	○本時の授業を通して考えたことを 書かせる。 ○自分の能力や資質を生かして社会に 貢献することに大きな意味がある ということを理解できているかを ワークシートで確認する。

(3) 板書計画

小さな工場の大きな仕事

町工場の写真

発問1の回答

僕の画像

発問2の回答
(枠線は弁当箱のように)

雑巾などの写真

ロケットの写真

発問3の回答